

記録の分析と支援手順書の修正

- ・ 記録の方法
- ・ 記録の分析と支援手順書の修正

この時間で学ぶこと

- PDCAサイクルで支援を改善していくために必要な、記録に基づく支援手順書の修正方法を学びます。
- PDCAサイクルとは、Plan（計画） ・ Do（実行） ・ Check（評価） ・ Action（改善） を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していくの流れのことです。

演習の流れ

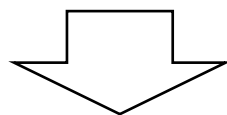


記録の分析と
支援手順書の
修正

演習5

記録の方法

記録の分析と支援手順書の修正
90分



i) 記録に基づく支援の振り返り

- 支援の振り返りと修正の重要性
- 田中さんの支援の記録

ii) 支援手順書の修正

- 支援手順書の記録の確認
- 支援の修正の方向性
- 支援手順書の修正

i) 記録に基づく支援の振り返り

○支援の振り返りと修正の重要性

正確なアセスメントの難しさ

本人はコミュニケーションや自分自身で振り返ることが苦手（自閉症の特性）

支援現場には混乱を助長する環境がある場合もある

支援の修正の重要性

支援者は、できるだけ客観的な情報を集め、
仮説に基づき支援を考える。

（＝支援手順書の作成）

支援を実施し、結果を振り返るプロセスの中
で成果を確認し、アセスメントを深める

（＝支援手順書の修正）

スモールステップでより良い支援を作り上げていく。

実施した記録が
重要

○田中さんの支援の記録

- ・ 支援手順書の確認
- ・ 動画の視聴
- ・ 「本人の様子」欄への記録

個人ワーク | 支援手順書の記録

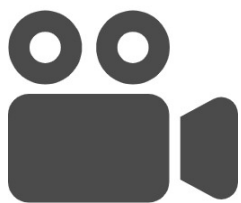
1. 動画を見て、支援手順書の「本人の様子」の欄に記録をします

田中さんの 支援手順書

支援手順書/記
録用紙
【作業
場面】

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子(記録)		
事前準備		「さぎよう カきゆうけい カードがけ× 作業機に作業① 機をのせる 入口のどこ			
移動	「さぎよう 取付作業機 に移動する	由利権が来たら「さ ぎよう取付をす る」座をいように、			
作業①	着席し作業 機をのせたら 作業②が出 のを待	フルの間に立つ 作業中は横に立 作業機が終わったら 作業②を片付け 机に置く			
作業②	作業②を 完了したら 作業③が出 のを待	作業中は横に立 作業機が終わったら 作業③を片付け 机に置く			
作業③	作業③を 完了したら カきゆうけい を受け取る	作業中は横に立 作業機が終わったら 作業③を片付け 「カード」 を渡す			
移動	休憩室に 行く	休憩室に行く のを見守る			
休憩	休憩 する	休憩中に作業道具を片付け る			

*「さぎようカード」「きゆうけいカード」「おでかけ×カード」を作っておく
*「おでかけ」
と言わねばならないカードを見せて、今
おでかけしていることを続けてもらうよう
に本人と関わ
る際の注意最小限にする。(声かけが多くなると混乱しやすいため)



動画の視聴

支援手順書の 記録の記入

支援手順書/記 録用紙 【作業場 面】

日付け	2000年0月 ×日	氏名	田中正則 さん	記入者	支援員 B
工程	本人の動き	支援者の動き・ 留意点	本人の様子（記 録）		
事前準備		「さぎよう カギゆうけい 準備せいか 作業機①の準備①を			
移動	「さぎよう 取可作業机に 移動する	セツとする 由平待兄が来たら「さぎ ※又右近ぐめ手邊瓦席 垣壁き宛とまうに、			
作業①	着席し作業 ①をせむら 作業②が出 のを待	ブルの間に立つ 作業中は横に立 作業①が終わったら 作業②を机付け に置く			
作業②	つ 作業②を 終りしたら 作業③が出 のを待	作業中は横に立 作業①が終わったら 作業③を机付け に置く			
作業③	つ 作業③を 終りしたら カギゆうけい を受け取 る	作業中は横に立 作業①が終わったら 作業③を片付け カード」を渡 す			
移動	休憩室に 行く	休憩室に行くの を見守る			
休憩	休憩す る	休憩中に作業道具を片付ける			

* 「さぎようカード」「きゆうけいカード」「おでかけxカード」を作っておく

* 「おでかけ」と
言われた時の対応カードを見せて、今や
っていることを続けてもらうようにする

* 本人と関わる
際、声かけを最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいた
め）

グループワーク | 支援手順書の記録の共有

1. 司会・記録・発表を決めます
2. 支援手順書の記録の内容をグループで共有します

※支援手順書__修正用（グループ用）に記入

ii) 支援手順書の修正

○支援手順書の記録の確認

支援手順書に沿って支援を実施した際の、本人のそれぞれの行動について、記録に基づいて確認する。

本人が想定と違う動きをしている時にはしっかり観察して記録する。
課題となる行動に発展しやすく、支援の見直しをするポイントとなる。

支援手順書/記録用紙
【作業場】

日付け	2000年0月 x日	氏名	田中正則 さん	記入者	支援員 B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）		
事前準備		「さぎょう ガキゅうけい 準備」の準備 作業機（準備①）を			
移動	「さぎょう 取付作業機に 移動する	又出たとき 函中待たれたら「さ ぎょうカードを 函中座をいように、			
作業①	着席し作業 終了したら 作業②が出 のを待つ	フルの間に立つ 作業中は横に立 作業終了したら 作業②を机付け に置く			
作業②	作業②を 終了したら 作業③が出 のを待つ	作業中は横に立 作業終了したら 作業③を机付け に置く			
作業③	作業③を 終了したら ガキゅうけい を受け取る	作業中は横に立 作業終了したら 作業③を片付け カード」を渡 す			
移動	休憩室に 行く	休憩室に行くの を見守る			
休憩	休憩す る	休憩中に作業道具を片付ける			

*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作っておく
*「おでかけ」と
言われた時の対応カードを見せて、今や
っていることを続けてもらうようにす
る本人と関わる
際、注意を最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすい
ため）

例えば「作業①」の工程で

本人の様子

違い

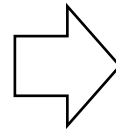
着席し作業①に取り掛かり、終了したら「おでかけ」と立ち上がる。

支援手順書の見直しが必要

恒而力

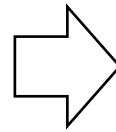
* 「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作っておく
 * 「おでかけ」と言われた時のカードを見せて、対応していることを続けてもらうよ
 * 年々差を縮め、互いの注意を最小にする。（声かけが多くなると混乱しやすいための）

1. 自立して取り組める。
期待した成果がでて
いる。



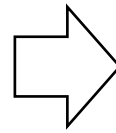
支援を継続する。
生活の中で広げていく。

2. 少し手助けが必要。
十分ではないが成果
がでている。



支援内容を分析し、より
効果的な支援を検討する。
より自立できるよう支援
手順書を手直しする。

3. 全くできない。
成果がでない。



支援そのものを見直す。

それぞれの行動ごとに見ていくことで、
手直しのポイントがつかみやすい

(参考)

「スキルの確認（スキルの評価）」

支援が本人の実際のスキルと合っているかを、
普段関わっているスタッフが短時間に現場で
実施できるインフォーマルアセスメントです。

スキルの確認の例

○コミュニケーション（受信・発信）について

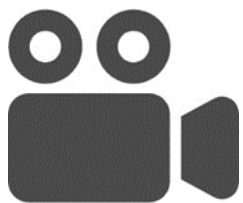
- ・言葉がどのくらい理解できているか
- ・嫌なときなどの表現の仕方
- ・活動の選択ができるか など

○認知について

- ・活動のやり方やルールを理解できているか
- ・スケジュールやタイマーなどの意味を理解できているか
- ・どのような視覚情報だと理解できるか
- ・文字、数字、色、矢印 など

○取り組み方について

- ・支援者の指示や手助けについての理解
- ・課題や指示には前向きに応じられるか など



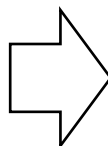
動画の視聴

グループワーク | 支援手順書の修正

支援手順書を修正します

※支援手順書_修正用（グループ用）に修正点を書き込みます。

支援手順書/記録用紙		ワークシート⑩:グループ用	
【作業場面】			
日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん
記入者	支援員B		
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけ×カード」の準備 作業机に作業①をセットする	
移動	作業机から作業机へ移動する	本人の動きを確認 田中さんが来たが「さぎょうカード」を手渡す ※テーブルに座らないように、田中さんとテーブルの間に立つ	
作業①	作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業①を片付け 作業②を机に置く	
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く	
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す	
移動	休憩室に行く	休憩室に行くの見守る	
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける	
*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作っておく *「おでかけ」と言われた時の対応 ・「おでかけ×カード」を見せて、今やっていることを続けてもらうようにする *本人と関わる際の注意点 ・声かけは最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいため）			



支援手順書/記録用紙		ワークシート⑩:グループ用	
【作業場面】			
日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん
記入者	支援員B		
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけ×カード」の準備 作業机に作業①をセットする	
移動	作業机から作業机へ移動する	本人の動きを確認 田中さんが来たが「さぎょうカード」を手渡す ※テーブルに座らないように、田中さんとテーブルの間に立つ	
作業①	作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業①を片付け 作業②を机に置く	
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く	
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す	
移動	休憩室に行く	休憩室に行くの見守る	
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける	
*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作っておく *「おでかけ」と言われた時の対応 ・「おでかけ×カード」を見せて、今やっていることを続けてもらうようにする *本人と関わる際の注意点 ・声かけは最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいため）			

発 表

1. 支援手順書の修正内容

○支援の修正の方向性（参考資料）

記録に基づく振り返りのポイント

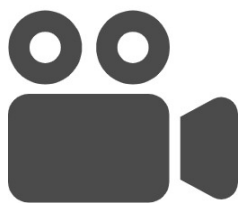
成果	<ul style="list-style-type: none">・ 支援することで、期待された効果があったか 例：自傷行為が減る、自立して活動に取り組める
本人の理解	<ul style="list-style-type: none">・ 支援の内容や使用したツールについて本人の理解 例：カードの意味がわかる、選択ができるなど
本人や家族の 納得の度合い	<ul style="list-style-type: none">・ 支援について本人や家族の納得の度合い
実施のスムーズさ	<ul style="list-style-type: none">・ 計画に沿って支援現場で継続して実施できているか
支援者の関わり方	<ul style="list-style-type: none">・ 本人への教授の仕方、促しかた、フェードアウト
その他観察できた 特性	<ul style="list-style-type: none">・ 支援の中で観察できた本人の特性 例：終わりがわかると集中できる、情報が多いと混乱しやすい

支援の修正の方向性(参考資料)

成果	<ul style="list-style-type: none">・ プラスの成果を踏まえて支援のステップアップの検討をする。・ マイナスの成果を踏まえて支援を修正する。・ 本人の自閉症の特性やスキルを再確認する。
本人の理解	<ul style="list-style-type: none">・ 本人の理解度に合わせてツールを使用する。・ 本人が理解しやすい環境設定をする。
本人や家族の 納得の度合い	<ul style="list-style-type: none">・ 本人、家族のニーズを再確認する。・ 家庭と事業所の認識の違いを埋める。
実施のスムーズさ	<ul style="list-style-type: none">・ 必要な時間に支援者を確保する。・ タイムスケジュールを見直す。・ 必要に応じて上長に相談する。
支援者の関わり方	<ul style="list-style-type: none">・ 支援手順書の内容を周知徹底する。・ 過干渉になっていないか再確認する。・ 本人の特性やスキルに合わせた伝え方の再確認。
その他観察できた 特性	<ul style="list-style-type: none">・ 観察できた行動、特性を今後の支援に活用する。

修正後の 支援手順書

[illegible]



動画の視聴

支援手順書をより良いものに

「支援を広げる」

- ・ うまくいった内容を他の場面に広げていく
- ・ 特定の支援者から複数の支援者が関われるように
- ・ アセスメントできた特性や手順を活かす
- ・ より自立できるように

支援の目的は強度行動障害が減ることだけでなく、地域社会で豊かに暮らせること

まとめの講義

1. 支援手順書に基づいた支援を振り返り、改善していくことが重要です。PDCAのサイクルにより良い支援の実施を目指します。
2. 職員のために強度行動障害を改善することが目的ではなく、本人の生活の質が上がることが大切です。